保護者のエンパワメントを促進する保育士の家庭支援に関する研究

吉　山　明　代

1. 目的

この研究の目的は、今保育士が日々保護者と関わる中で抱えている思い、実際に取り組んでいる保護者への支援などを把握し、保育士が行う保護者のエンパワメントを促進する支援がどのようなものであるかを明らかにすることである。前者の目的のために研究Ⅰを、後者の目的のために研究Ⅱを行った。保育士にコンサルテーションを行う発達心理士と、保護者を支援する保育士が、保護者のエンパワメントを促進する支援を提供することに貢献できるものとしたい。

2. 方法

研究Ⅰ：調査手続き 2009 年 6 月下旬に、大阪府にある 3 か所の私立保育園に所属する保育士に、自由記述の質問紙調査を実施。63 名からの回答が得られた。調査内容「困ったこと」「出来た良い対応」「保護者からの要望」「取り組んでいる保護者へのサポート」「行っている工夫や配慮」「工夫・配慮により保護者に起こった変化」「消極的な保護者の育児への積極的参加を促す方法」「保護者サポートのあるべき姿」「保護者と関わり特に感じること」

研究Ⅱ：調査手続き 2009 年 11 月上旬に、大阪府にある 24 か所の私立保育園に所属する保育士に質問紙調査を実施。有効データ数 337 名分。研究Ⅰの回答と、新澤・今井（2000）を参考にして作成した 40 項目に対して 2 通りの教示をし、5 件法で回答を求めた。1 問目では実際に行っているか否かを問い、2 問目では保護者支援としてどのぐらい効果があると思うかを問うた。基礎資料としては、保育士としての経験年数を求めた。

3. 結果・結論

研究Ⅰ：保護者への対応で困ったことには「ケガに関するトラブルへの対応」「親の都合で子が登園出来ない」、保護者の子育てへの積極性を促す方法には「子どもの園での様子を伝える」「保護者の相談相手になる」、保護者と関わる中で特に感じていることには「大人中心でものごとを考える」「子ども・育児への関心の低さ」「子育てへの不安感の多さ」などが挙がっていた。研究Ⅰで保育士の抱える現状を把握した上で、保育士に求められるのは「伝える力」と「外的資源活用力」であることがわかった。

研究Ⅱ：2 問目の結果主成分分析（Varimax 回転）3 因子解の結果が最適と判断して採用した。第 1 因子を『関係促進コミュニケーション』、第 2 因子を『育児参加動機づけ』、第 3 因子を『保護者不安調整』と命名した。研究Ⅱから、保育士が保護者をエンパワメントする家庭支援とは、保護者とあらゆる他者の関係性を促進するコミュニケーション、保護者の育児参加への動機づけ、保護者の不安を調整するような働きかけ、以上 3 点を意識しながらの関わりであると言える。